

3年ごとに最新のストレージを利用できる「Forever Flash」プログラムで最新のストレージを入手同時に他社ストレージをリプレイスし、30%以上のコスト削減を実現



SONY

会社名：

ソニーネットワーク
コミュニケーションズ株式会社
法人サービス事業部門
<http://www.bit-drive.ne.jp/>

ビジネスの変革

追加コストなしで最新環境への
移行による性能向上、
トータルランニングコスト削減を実現

採用地域

東京都 (日本)

業種

ITサービス

日本で初めて「FOREVER FLASH」プログラムを適用

ソニーネットワークコミュニケーションズの法人サービス事業部門では、企業ユーザーに対してマネージド型のクラウド&ネットワークサービスを提供しています。近年はインフラ分野以外に、ユーザーのビジネスニーズに合った業務システムに力を入れており、勤怠管理システムの「AKASHI」(<https://ak4.jp/>)、在宅医療ケア業務支援システムの「bmic-ZR」(<https://bmicrz.jp/>)といったサービスは既に多くのユーザーに利用されています。加えて2017年3月には、「b-Pass」(<http://recurring.jp/>)と呼ばれるリカーリング(継続課金)ビジネス支援サービスもスタートし、インターネットにおけるサービス領域の拡大に意欲的に取り組んでいます。同社が最初にサービス提供を支えるストレージ基盤としてピュア・ストレージ製品を導入したのは、今から3年前。当時、提供していた仮想デスクトップサービス(VDI)のバックエンドとして、高負荷状態でも高い性能を維持でき、コストパフォーマンスにも優れたオールフラッシュストレージである「Pure Storage FlashArray 400 (FA-400)」シリーズを選択し、同時にそのサポートオプションである「Forever Flash」プログラムの契約を行いました。

追加コストなしで最新のストレージコントローラーに更新

企業が保存すべきデジタルデータの総量は指数関数的に増え続けており、それに伴いストレージに関する技術も劇的に変化しています。そのため、数年後に訪れるリプレイス時期を見据え、容量・性能・コストといったすべての面で要件を満たすストレージの選択は容易ではありません。要件に合ったストレージを導入できたとしても、それを長く使い続けるためには多くの場合、膨大な保守費用が必要です。そしてリプレイスのタイミングでは、また同様の選択に悩まされることになります。そのため、パフォーマンスと信頼性に優れたストレージを10年以上の長期にわたって安心して使い続けられるような方法が、多くのユーザーに求められています。オールフラッシュストレージベンダーであるピュア・ストレージが提供する「Forever Flash」プログラムは、ストレージ基盤に対するこうしたユーザーのニーズに応えるサポートプログラムです。

「Forever Flash」プログラムは、一定の契約条件のもと、最短で3年後に追加コストなしで最新のストレージコントローラーを提供してくれるという、他のストレージベンダーにはない条件でした。ただ、契約が適用されるまでは『本当に最新のコントローラーになるのだろうか? 古い機種を下取りして、その分、最新機種を割引するといった程度のものではないのだろうか?』と半信半疑でした。実際に、ほぼ作業費のみで最新のコントローラーに更新できたのには、少し驚きましたね」とソニーネットワークコミュニケーションズ 法人サービス事業部門の松田崇氏は話します。

「Forever Flash」プログラムのメリットはコスト削減だけではない

同社では、3年前に導入した「FA-400」シリーズのコントローラーを「Forever Flash」プログラムの適用により「Pure Storage FlashArray //M20」シリーズへと更新。本来、ストレージ

用途:

顧客向けサービス提供のストレージ基盤

課題:

- ストレージのリプレイスに伴うコストを削減したい
- 増加するデータ量に適正なコストで対応したい
- コストを適正化しつつも、性能、信頼性、運用性を高めたい

ITの変革:

- 「Forever Flash」プログラムによる無償での最新コントローラへの更新
- プログラム適用によって不要になったリプレイスコストでフラッシュアレイを増設
- 最新環境への移行による性能向上、トータルランニングコスト削減

全体のリプレイスに使われるはずだった費用をフラッシュアレイの増設に使い、容量を倍増することができました。この増加した容量を使って、同じころにリプレイス時期を迎えていた他社製ストレージで管理していたデータもピュアストレージ製品に統合し、その後も容量的に余裕がある状態で運用が続けられています。今回はコントローラーの更新に加えて、ディスク増設を行っていますが、契約料を含めても実効容量ベースの比較で「他社製品へのリプレイスでは、移行コストが1.4倍程度になる試算だった」(松田氏)と言います。

最新のピュア・ストレージのストレージ環境へ移行したことによる顕著な効果として、同社が挙げているのがラックスペースやランニングコストの削減と運用負荷の低減です。以前の環境では「FA-400」シリーズで6U、他社製ストレージで43Uのラックスペースを利用していましたが、最新の「//M20」シリーズでは、わずか3Uのスペースにコントローラーとディスクを設置し、そこにはすべてのデータを収めることができます。

ソニーネットワークコミュニケーションズ 法人サービス事業部門の加藤大敦氏は

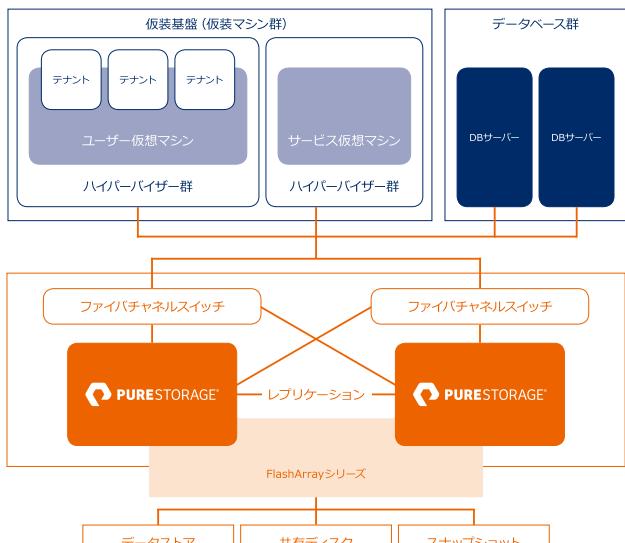
「ラックスペースの減少に加え、他社製ストレージで利用していた200V電源の整理も行いました。結果として、データセンターでの機器設置や電力にかかるランニングコストを大きく削減できるだろうと期待しています」と話します。また、ストレージにまつわる運用管理のコストや負担も大きく下がることができたと言います。複数のストレージで管理していたデータを統合したことに加え、ピュア・ストレージのもつ高いパフォーマンスも、運用負荷の低減に大きく貢献しています。

「以前のストレージ環境では、ボリュームに対する仮想サーバの収容台数、メンテナンスやバックの実行に伴うI/Oトラフィックのピーク時間帯などをシビアに見ながら運用を行う必要がありました。今回、オールフラッシュストレージの新環境へデータを移行したことにより、高いIOPS性能の恩恵でメンテナンスウンドウの自由度が高まり、またディスクに可動部がないことで故障の発生率も下がるといったメリットが得られています。これらによって、運用負荷はかなり下がったと実感しています」(加藤氏)

競争力のカギは“高性能”“高信頼性”かつ“低成本”

「私どもは法人向けにサービスを提供しているため、その基盤には性能に加えて、高い安定性が求められます。さらに、お客様に対してリーズナブルにサービスを提供するため、最終的には導入や運用のコストを下げていくことも必要です。ピュア・ストレージについては、これまでの運用実績から性能、安定性については強く信頼していますし、Forever Flashプログラムの適用によって、コスト面でも競争力のあるサービス提供のための基盤を整えることができたと感じています」(加藤氏)

同社では法人サービス事業部門における既存のサービス拡大や、ビッグデータや機械学習といった新しいニーズに応える使いやすい新サービスの提供にあたり、コアになるストレージ基盤としてピュア・ストレージの活用範囲を広げていく計画です。



ピュア・ストレージ・ジャパン株式会社
お問い合わせ: 03-5456-5710 (代表)
<http://www.purestorage.com/jp/contact.html>